



これはフェリーニの巨大なる映像芸術！

フェリーニの

現代ローマに世界の終末を象徴して
絢爛たる色彩美、哀愁の音楽で
今、くり展げる衝撃のファンタジア！

■カンヌ映画祭特別上映作品

ローマ

〈テクニカラー〉

ピーター・ゴンザレス/ブリッタ・バーンズ
ピア・デ・ドーゼス/フィオナ・フローレンス ■特別出演 アンナ・マニャーニ
監督・脚本 フェデリコ・フェリーニ/撮影 ジュゼッペ・ロトゥンノ
音楽 ニノ・ロータ/ユナイテッド映画

United Artists
Entertainment from
Transamerica Corporation



FELLINI ROMA

これはフェリーニのローマ。フェリーニが彩る絢爛たるローマ。古代から現代まで不死鳥の如く甦えるローマ。

カンヌ映画祭で見た「フェリーニのローマ」

読売新聞・河原畑 寧

自己内面のドキュメンタリー

「フェリーニのローマ」は、カンヌ映画祭参加作の中では単に看板が大きいだけでなく関心の的であった。寺山修司も「どんな映画かねえ」と大変興味を示していた。

その「フェリーニのローマ」が上映された五月十四日夜、寺山は興奮したおももちでやって来た。「フェリーニは完全にカムバックしたねえ。最初の方のゴチャゴチャした話の筋が整理されてゆく前がすごい。生活のディテールをたんにねに拾いながらリアリズムじゃあないんだなあ……」

「フェリーニのローマ」は、監督フェデリコ・フェリーニの記憶と内面のドキュメンタリーである。そして、スクリーンに現われるローマは、フェリーニによって建設された都市なのだ。まず十八歳のフェリーニがローマに降り立ち部屋を借り、町を歩きまわる。路上のレストラン、大家族がひしめくアパート、売春宿、ボードビ

フェリーニ、映像の洪水に

巨大にして真に衝撃的な杭を打つ。

これはドキュメンタリーでも観光映画でもない。フェリーニ独自の映像世界であり、彼がイメージの中に構築したローマの姿だ。物語性はそれほど重要でなく「感覚」のドラマだ。凄じいばかりの映像の洪水だ。人々は震えおののくような映像の到来を久しく待ち続けていた。ベルトコンベアー式に連続と続く映像があまりに多すぎた。

久しく待っていたかいたがあった。映像の洪水の中で人は瞠目する。目や耳だけでなく身体の器官のすべてを動員して映像を観てしまおうだろう。それが「フェリーニのローマ」だ。そこには強烈なカフェインのようなものが混入されいつまでも興奮状態が続く。この作品を観た衝撃はこんなものだろう。

その映像の激流の中で突如、一瞬の稲妻に遭遇し、まるで天の啓示を受けた如く閃光と人は一体となる。そして観終った後はその激流から難なく飛翔し、暴風雨圏内から脱出してしまっているさわやかに心が洗われてしまふ。だからこそ叫べる。心底から一言「凄い！」この「フェリーニのローマ」は72のカンヌ

ル劇場など、人間くさく陽気であけっぴろげでワイ雑な、一九三〇年代のローマがスクリーンに展開する。

かと思うと、現在のローマへ向かう自動車がひしめく道路。カメラを乗せたクレイジー・トラック、そのカメラがとらえた雨にけむるローマ、そのあとの乗用車の窓にはフェリーニの顔が見える。雨は激しくなり夜のとりりがおどろくというように想念と現実の映像をモザイク状に組み合わせ「フェリーニのローマ」を盛り上げてゆく。

地下鉄工事のドリルで偶然に発見された二千年前のローマ貴族の邸宅。その壁に描かれた彩色フレスコ画が、吹き込んできた二十世紀の空気にさらされて、見る見るうちに色あせ消えてゆくはかなさ。カトリックの総本山のためのファクション・ショー。司祭服の二人組がローラー・スケートで一巡する「スポーティーな司祭服」とか、金糸銀糸の縫いとりからネオン・サインながらピカピカと赤や緑に発光する司祭の豪華衣裳とか「近代的」カトリック・ファッ

映画祭に特別上映され多大の反響を呼んだ。

フェリーニ、その華麗で迫力ある映像の輪舞

幾千年もの歴史を経たローマの古代遺跡。

フェリーニはローマのペールを思いきりよくパツとひんむいてみせる。「フェリーニのローマ」。遺跡だけでなく現在すらも。その荒削りの中に過去、現在のローマが実に生き生きと息づいている。

フェリーニがローマのペールをはぐ時の格好が勇ましい。まばゆいばかりに極彩色を塗りこめたタイム・マシン、乗務員は金糸銀糸に着飾り、あるいは胸もあらわにのいてたち。勿論、指揮隊長はフェデリコ・フェリーニ。

彼フェリーニはまるで最極上のスリラー映画を観ているような映像を構成し、次に何が飛び出してくるのか見当もつかない映像で観る者をグイグイ引きこむ。パチカン教皇のためのファクション・ショーが凄じい。色彩と皮相と恐怖の交響楽。地下の遺跡が一瞬にして消えるシーンも身の毛がよだつ。過去へのSF旅行をへきと色とりずみで見せる。売春宿の高らかないのちの讃歌。娼婦を描いてフェリーニは世界最高であろう。ラストはオートバイにのった若者のローマ脱出がすごいスピ

ジョンが紹介され、ついには法王のための金ピカの大仰な衣裳が移動ステージに乗って現われるという念の入れ方である。

その寺山が「どうして撮(と)ったのかねえ」と感嘆したのが、ラストのシークエンス。オートバイの一群がどこからともなく現われて、夜のローマの町を爆音とどろかせ疾走する。ビットリオ・エマヌエーレ広場、スペイン階段、コロシムをすすめて走りまわり、ついにはカメラを従えてローマを飛び出してゆく。名作「8½」をより土着的にしたたかにした圧倒的な迫力とともに、西欧文明の終末感をたたえて、印象に強く残る映画だった。

(読売新聞より)

この作品でのフェリーニと若者の対話

作品の中でフェリーニは撮影中、若者に次のような質問責めに合う。「ローマを客観的に描いて社会の病源を衝く意図か」、「荒廃したローマを描いて何になるのか」、「フェリーニは答える「映画は理論ではない」。

ードで描かれる。エンドマークなし。

フェリーニをはじめ映像世界に君臨するスタッフ

「サテリコン」と同じスタッフ。フェリーニは原案、脚本をベルナルディーノ・ザッポリーニと共同執筆。撮影はジュゼッペ・ロトゥンノ。衣裳デザインはダニロ・ドナティ。音楽は常にフェリーニとの名コンビで巨匠ニノ・ロータが当り、映像のよき起爆剤になっている。フェリーニの青年時代を演ずるのはピーター・ゴンザレス。

「フェリーニのローマ」その映像の鮮烈な断片

魅惑にみちたその映像のコマを紹介していくと……ルビコン河/教室でのスライドによる歴史の時間/シーザーの舞台/ローマの駅、アパート、旺盛な食欲/高速道路/デモ隊と警官隊/ジョビネリ劇場の寄席/空襲警報/二部、地下鉄工事現場、掘削機、壮麗な壁画、その風化、地下大浴場/戦時中の公設娼家、その粘液的映像/教会のファクション・ショーの奇妙な絢爛さ、それを観る人物の描写/ヒッピー族/ラスト・シーンの闇オートバイ軍団の疾走、ヘッド・ライトに映るローマの古代遺跡。テクニカラー(上映時間二時間)

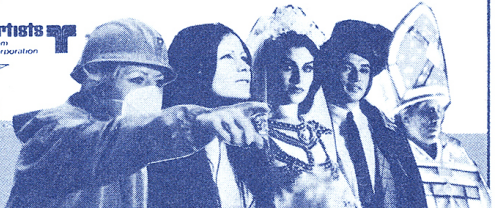
監督/フェデリコ・フェリーニ ●撮影/ジュゼッペ・ロトゥンノ ●製作デザイン及び衣裳/ダニロ・ドナティ ●音楽・作曲/ニノ・ロータ ●振付/ジーノ・ランディ

《キャスト》ピーター・ゴンザレス/ブリット・バーンズ/ピア・デ・ドーゼス/フィオナ・フローレンス

マルネ・メイトランド/ジョバノリ・レナート/特別出演アンナ・マニャーニ

《テクニカラー》

ユナイテッド映画
United Artists
Entertainment from
Transamerica Corporation



お得な450円の特別鑑賞券発売中

団体申受中!

近日 フェリーニ・ロードショー

ヒビヤ みゆき座 (591) 5357

お問合せは
(503) 6137 U A
(501) 6682 ウイズダム